

※ポリシーとの関連性

博物館学芸員にとって必要な考古学に関する基礎的科目として位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学概論 2	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 博物館資料としての考古資料の保存と、公開されるまでについて学ぶ。考古資料の取り扱いや公開・活用について学習し、考古資料展示の実例に触れ、展示される考古資料について理解を深める。展示に必要な日本考古学の成果についても紹介する。遺跡や出土資料が展示・活用される実例を中心に講義する。	メッセージ 【実務経験】博物館における実務経験を活かして、展示公開される考古資料に、なるべくたくさんふれられるような授業を行います。
	到達目標 考古学資料の展示について理解できる。 展示された考古資料について自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	文献参照
	2	考古資料の収集の実際と関連法規	文献参照
	3	遺跡の公開と展示	文献参照
	4	発掘報告書の見方と遺物収納、貸し出し、閲覧	文献参照
	5	多様な考古資料	文献参照
	6	考古学と関連諸科学	文献参照
	7	遺物の保存処理	文献参照
	8	公開活用とパブリックアーケオロジー	文献参照
	9	解説シートの作成	各自課題提出
	10	中間まとめ	これまでの授業の振り返り
	11	日本の考古学（1）旧石器時代	各自課題発表、文献④⑤参照
	12	日本の考古学（2）縄文時代	各自課題発表、文献④⑤参照
	13	日本の考古学（3）弥生時代	各自課題発表、文献④⑤参照
	14	日本の考古学（4）古墳時代	各自課題発表、文献④⑤参照
15	日本の考古学（5）歴史時代（古代・中世・近世・近代）	各自課題発表、文献④⑤参照	
16	レポート	課題提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。受講者に課題を課し、発表することを計画する。 参考文献①鈴木公雄1988年『考古学入門』東京大学出版会。②松田陽・岡村勝行2012年『入門パブリック・アーケオロジー』同成社。③澤村明2011年『遺跡と観光（市民の考古学）』同成社。④小野昭ほか2015年『日本発掘！ここまでわかった日本の歴史（朝日選書）』朝日新聞出版。⑤新泉社『シリーズ 遺跡を学ぶ』。⑥文化庁記念物課2010年『発掘調査の手引き』同成社。		
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールにて連絡すること。 ・提出する感想と課題は、発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 ・「考古学概論」を事前に受講しているより理解が早い。但し、受講を前提とせず講義の中で随時補足説明を加え、これらの科目を受講していない学生も本講義を理解できるよう配慮する。なお、受講していない学生は文献①を事前に読むことを推奨する。 ※現場見学等については見学地の都合もあるため開催を見送る場合もある。		
	評価 レポート課題+各回小テスト（80%）。平常点（20%）。 ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 考古学研究によって得られた研究成果を広く身につけ、考古学調査を紹介できる能力を高める。 関連科目は「考古学概論」「沖縄の考古学」。上位科目としては「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館概論	後期	土6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲福 政斉	1年	メール (ptt188@okiu.ac.jp) で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、博物館学芸員の職務上欠くことのできない、博物館の存立の意義や機能、館種の分類をはじめ、博物館の歴史、学芸員の果たす役割や博物館関係法規、博物館倫理といった、博物館学の中でも最も基礎的な事項の理解をねらいとする。</p>	<p>本科目は、博物館学の概論として、学芸員養成科目全体を俯瞰し、相互の関連等にも意を払いつつ授業を進める。また、博物館現場の今日的な実情や課題等も授業内容に随時反映させていく。なお、今年度の授業は、新型コロナウイルス（COVID-19）流行拡大防止のための本学の指針にもとづき、オンラインによるレジュメや資料の提示、課題研究など、対面によらない方法で実施する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ■ 博物館の存立の意義や機能、館種の分類など、博物館に関する基礎的な知識を習得する。 ■ 世界、日本、沖縄の博物館の歴史について、その概要を習得する。 ■ 博物館法および関連法規等について学び、わが国における博物館の位置付けを理解する。 ■ 博物館の業務に関わる者が職務を遂行するうえで常に念頭に置くべき職業倫理について理解する。 ■ 学芸員に求められる資質のひとつである、的確な情報の収集と整理に基づき理論的な分析や考察を行う能力を身につける。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 博物館概論について	館園の見学、関連資料や情報の収集
	2	(特) 博物館法と同施行令、施行規則	博物館法および関連法規等の確認
	3	(特) 博物館とは — 博物館について学ぶにあたって —	館園の見学、関連資料や情報の収集
	4	(特) 博物館学の歴史と課題	同上
	5	(特) 博物館の機能と分類	同上
	6	(特) 世界の博物館史	同上
	7	(特) 日本の博物館史	同上
	8	(特) 沖縄の博物館史	同上
	9	(特) 博物館法 逐条解説 ① — 法制定の目的・博物館の定義と事業 —	博物館法および関連法規等の確認
	10	(特) 博物館法 逐条解説 ② — 学芸員・博物館の設置及び運営上望ましい基準 —	同上
	11	(特) 博物館法 逐条解説 ③ — 博物館の評価・博物館の登録制度 —	同上
	12	(特) 博物館法 逐条解説 ④ — 公立博物館 —	同上
	13	(特) 博物館法 逐条解説 ⑤ — 私立博物館・博物館相当施設 —	同上
14	(特) 博物館と学芸員の職業倫理	博物館に関する倫理規定等の確認	
15	(特) ふたたび博物館とは — 総括 —	期末テスト出題範囲の復習	
16	期末テスト(博物館法について)	同上	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ■ テキストは特に指定しない。レジュメおよび博物関連法規等の資料を配布し、これらを用い授業を進める。 ■ 自主学習および博物館を見学する際に参考となる図書として、次のものを掲げておく。 <ol style="list-style-type: none"> ① 全国大学博物館講座協議会西日本部会編 『概説 博物館学』 2002年 芙蓉書房出版 ② 水藤真 『博物館を考える—新しい博物館学の模索』 1998年 山川出版社 ③ 沖縄県博物館協会編 『沖縄の博物館ガイド』 2008年 編集工房東洋企画 ④ 中村浩・池田榮史 『ぶらりあるき沖縄・奄美の博物館』 2014年 芙蓉書房出版 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ■ 配布するレジュメや資料の内容のほか、特に重要と思われる点は各自でまとめ、理解を深めるよう心がけること。情報の的確な収集と整理、これにもとづいた理論的な分析と考察は、学芸員に求められる重要な資質である。 ■ 可能なかぎり博物館に足を運び、展示はもとより施設、設備等についても見聞する機会を多くもつよう心がけること。百聞は一見に如かずである。 ■ 課題の提出期限は厳守のこと。 		
評価	<p>本科目の成績は、授業への参加度（ミニレポート、アンケート等）30%、期末テスト（博物館法に関するもの）30%、課題レポート40%の割合で評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 博物館概論は、博物館学芸員資格を取得するうえで最も基礎的な事項を取り扱う科目である。本科目で得た知識をふまえて、他の博物館学芸員資格関連科目を履修してもらいたい。 ■ 本科目で取り扱う博物館法および関係法規等は随時改正が行われている。本科目の履修後も折にふれ最新の条文によりその内容を確認しつつ、他の関連科目の学習に臨んでもらいたい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館学史	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 明子	2年	ptt843@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 博物館について、博物館の成り立ちや博物館学の流れを知るとともに、表から見える活動だけではなく、保存や研究といった博物館の土台を支える学芸員の仕事や博物館に関わる人びと、場所の果たす役割等についても学ぶ。	メッセージ 各講義の内容と関連する博物館や美術館についても紹介していきます。できるだけ博物館の多様性や可能性について、興味深く感じ取れるようにしたいと思います。
	到達目標 博物館を来館者として外から眺めるのではなく、博物館の成り立ちを知り、学芸員の表からでは見えづらい仕事について学ぶことにより、学芸員に必要な、内から博物館をみる視点を養うことを目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドランス	シラバスをよく読むこと
	2	インターネットを使って博物館を楽しむ	ネット博物館プログラムを体験
3	博物館をめぐる問題・博物館のこれからを考える（1）	博物館の問題をレポートに書く	
4	博物館をめぐる問題・博物館のこれからを考える（2）	博物館の問題をレポートに書く	
5	博物館の役割・機能 資料を保存する	モノを調査する	
6	博物館学とは／博物館の歴史：西洋（1）	課題に答える	
7	博物館の歴史：西洋（2）	課題に答える	
8	博物館の歴史：日本（1）	課題に答える	
9	博物館の歴史：日本（2）	課題に答える	
10	博物館のはじまり：沖縄	課題に答える	
11	博物館学史（1）博物館学の発展：欧米	課題に答える	
12	博物館学史（2）博物館学の発展：日本	課題に答える	
13	博物館学史（3）博物館を創ってきた人びと（1）	課題に答える	
14	博物館学史（4）博物館を創ってきた人びと（2）	課題に答える	
15	博物館学史（5）博物館を創ってきた人びと（3）	期末レポート作成	
16	まとめ	期末レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など 講義ごとにプリントを配布する。参考文献は講義ごとに関連する文献を紹介する。		
	学びの手立て 普段から積極的に博物館や美術館、展覧会等へ足を運び、関心を持っておくこと。遅刻や私語、授業中の態度、携帯電話のマナー等に気をつけ、常識ある態度でのぞむこと。原則として欠席はいかなる理由であっても欠席として扱う。（ただし伝染病による出席停止や忌引き、実習等に関する公欠の場合には、相談・調整により対応を検討する。）		
	評価 コメント票（25%）講義毎に感想や意見のフィードバックを行う。1回毎に評価する。 課題（45%）課題に対し、的確にテーマを捉え、自分の考えや意見をまとめているかを評価する。 期末レポート（30%）これまで学んできたことや博物館体験等をふまえ、具体的に自分の感じたことや考えたことをまとめているかを評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 博物館学関連の科目。引き続き、多様な分野の博物館や美術館、展覧会等へ足を運び、さらに見聞を深める。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館学評論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 明子	2年	ptt843@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館とはどのようなものか。博物館体験は私たちにとって、何をもたらすのか。博物館について主に来館者の視点から概観し、多角的に博物館を捉えることを目指す。博物館を取り巻く状況や問題点、課題等について、実際の博物館体験を元にしながらかえる。	自分自身の博物館体験を振り返りながら、博物館について考えていきます。講義や博物館見学を通して、自分では気づかなかったことや一人では見えにくいことが発見できるかもしれません。来館者の視点を考えることは、博物館の活動を考える上でとても大切なことです。
到達目標	博物館体験について、「博物館へ行く前に」「博物館の中で」「博物館体験の後で」の3段階に分け、来館者の動きや博物館での学び、記憶について考えていく。それらを元に、博物館を評価する基準を考え、実際に個人で博物館を見学してもらう。博物館体験を通して、来館者にとって必要なことはどのようなことなのか、来館者の目を通して見える博物館について考える。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 講義概要説明	シラバスをよく読むこと
	2	(特) 博物館を評価する	レジメを良く読み、課題に取り組む
	3	(特) 博物館体験：博物館へ行く前に (1)	レジメを良く読み、課題に取り組む
	4	(特) 博物館体験：博物館へ行く前に (2)	レジメを良く読み、課題に取り組む
	5	(特) 博物館体験：博物館へ行く前に (3)	博物館見学
	6	(特) 博物館体験：博物館の中で (1)	レジメを良く読み、課題に取り組む
	7	(特) 博物館体験：博物館の中で (2)	レジメを良く読み、課題に取り組む
	8	(特) 博物館体験：博物館の中で (3)	レジメを良く読み、課題に取り組む
	9	(特) 博物館体験：博物館の中で (4)	レジメを良く読み、課題に取り組む
	10	(特) 博物館体験：博物館体験の後で (1)	レジメを良く読み、課題に取り組む
	11	(特) 博物館体験：博物館体験の後で (2)	博物館を評価する基準を考える 1
	12	(特) 博物館を評価する基準を考える	博物館を評価する基準を考える 2
	13	(特) 大学博物館	大学博物館について調べる
14	(特) 博物館体験を創造する	期末レポート作成	
15	(特) 博物館体験	期末レポート作成	
16	(特) 博物館体験を振り返って	期末レポート提出	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	講義毎に資料を送付する。 参考文献：『博物館体験 学芸員のための視点』 ジョン・H・フォーク／リン・D・ディアーキング・著／高橋順一・訳／雄山閣／1996年		
	学びの手立て		
	普段から博物館等へ足を運び、関心を持っておくこと。今学期も引き続き授業連絡等による課題を考える自己学習が中心となる。したがって、課題が提出されていない状況は講義の欠席と同じ状況であり、学則で定められた講義回数の1/3以上の課題未提出は、不可になる。締め切りを過ぎて提出する際には、減点の対象となる。課題を提出する際、メール利用時に、必ず提出する者の氏名、提出する相手の氏名、何を提出するのかを本文に明記すること。本文に何も書かれていない添付ファイルのみのメールは、課題提出としては認めない。		
	評価		
	コメント、課題 (70%) 講義毎に課題を設定する。資料を読み、課題の意図を考えて理解した上で、自分の考えや感想等をまとめる。1回毎に評価する。 期末レポート (30%) 各自で博物館へ行き、体験したことを講義の内容を踏まえた上で、レポートにまとめる。詳細については、今後別途提示する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 博物館学関連の科目。引き続き、多様な分野の博物館や美術館、展覧会等へ足を運び、さらに見聞を深める。
-------	--

※ポリシーとの関連性

博物館法に基づき、学芸員が利用者の思考とその行為の時間を提供し、国民の社会形成に必要な資質の理解を深める。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館教育論	後期	土 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前田 一舟	1年	ptt219@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、博物館における教育とは何かを県内外の事例より学ぶ。それらと同時に学芸員が利用者の為に果たす役割等を探り、学芸員の資質を養うことをねらいとする。	近年、学芸員には調査研究の姿勢や展示だけでなく、利用者の学びを促す仕組みも求められている。そこで、どのように利用者の思考とその行為の時間を提供するのを実体験や先行研究等の事例より自主学習を通して学修していく。

到達目標	博物館は、教育基本法の改正に伴い生涯学習の理念等が盛り込まれ、その実現を図る為、現代社会のニーズに対応した教育活動の場が進められている。その為、博物館学芸員には調査研究に裏付けられた高度な専門性とその学習への活用が強く求められている。地域に根ざした博物館と学芸員の果たす役割は、地域とのリレーションシップづくりが不可欠であり、知的発見の場として、さらに学習の成果の活用という教育活動が重要視されなければならない。講義で取り扱う内容は、知的発見の場を支えていく調査研究をはじめ、その成果をもとに、どのような手法で学校教育と生涯学習等へ活用できるか、そして知の学びを通してどのように地域産業に結びつけられるかを博物館の現場より事例を取り上げていく。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明と博物館教育の体験談（特）	自主学習①利用者を分析する
	2	学生からみた博物館の印象とは？（特）	自主学習②人はなぜ学ぶのか
	3	人の学びの起こる瞬間（特）	博物館法及びその関連法の把握
	4	生涯学習社会における博物館の使命－教育と学びの姿勢－（特）	自主学習③社会的課題を探る
	5	博物館における社会的・環境的課題の役割とその教育活動（特）	自主学習④学習指導要領の把握
	6	学校と博物館の役割（特）	自主学習⑤教育プログラムを探す
	7	「みる・かんがえる・はなす・きく」を促す仕組み（特）	自主学習⑥印象に残った展示は？
	8	展示で学びをひきだす（特）	自主学習⑦チラシ等の調査
	9	チラシとポスターから始める学びの展開（特）	自主学習⑧自分が好きな風景
	10	風景をデザインする教育（特）	自主学習⑨地域資源を分析する
	11	遊びから学ぶ構想と企画のカー地域資源・教育資源・産業資源－（特）	自主学習⑩教育プログラムを探す
	12	博物館の内と外を生かす学習プログラム〔事例：ジャンク博士〕（特）	自主学習⑪教育プログラムを探す
	13	モノとヒトを生かす学習プログラム〔事例：船の模型づくり編〕（特）	発表資料作成①
	14	博物館における学びのデザイン（特）	発表資料作成②
15	利用者の思考とその行為の時間プログラム（1）〔発表：講評〕（特）	発表資料作成③とその整理	
16	利用者の思考とその行為の時間プログラム（2）〔発表：講評・まとめ〕（特）	整理と新たな課題の発見	

テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回プリントを配布する。 ・時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。 <ul style="list-style-type: none"> ①ジョージ・E.ハイン著、鷹野光行監訳、『博物館で学ぶ』、同成社、2010年。 ②フォーク、ディーアキング共著、高橋純一訳、『博物館体験－学芸員のための視点－』、雄山閣、1996年。 ③布谷和夫、『博物館の理念と運営－利用者主体の博物館学－』、雄山閣、2005年。
----------------	---

学びの手立て	<p>【学びの手立て】授業のなかで配布した資料や紹介した情報を復習し、次の自主学習へ取り組むよう心掛ける。また、授業では担当者による一方的な情報提供だけでなく、自主学習及び意見参加型の場を常に求める為、自発的な意見等も要する。</p> <p>【履修の心構え】授業の進行によっては博物館に関する日本の最新報道や台風等による休講からトピックの順序を変えたり、一部変更することがある。授業を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語）は、心得ておくこと。また、オンラインの場合は顔の表示も条件とする。そして、課題等の提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けられないので十分に留意すること。</p>
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の到達目標を達成する為、授業のなかでその都度記述課題や学習課題を求め、電子メールで提出とする。その評価を以下のとおり設定する。 ・記述課題（50%）、学習課題（40%）、平常点（質問や発言を適宜加点10%）より評価する。 ・出席状況については、できる限り遅刻並びに無断欠席はしないこと。欠席する場合は事前に欠席届を済ませておくこと。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目としては、「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」等があげられる。 ・次なるステージとしては受講終了後に独自で取り組みたい興味のあるテーマを設定し、その自主研究を通して地域の資源から学校教育及び生涯学習やミュージアム産業へ結びつききっかけを育んでほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	博物館経営論	期別	曜日・時限	単位
	担当者	-翁長 直樹	後期	月6	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	授業終了後に教室で受けつけます	

学びの準備	ねらい	博物館は今運営形態が大きく変化している。本講座では制度や具体的な博物館活動などに即しながら学んでいく。民間委託や指定管理者制度など、行政改革の流れの中で現在の博物館が直面している問題についても具体的に触れることにより博物館経営にとって重要な要素について考えたい。	メッセージ	博物館運営を円る組織と職員構成、施設及び設備について具体例を挙げて解説し、ミュージアム・マネジメントについて考えます。楽しく学べる博物館にするためには経営をどうするかについて考えます。
	到達目標	①博物館の基本構成を知ることによって、実際の経営の現場で自らの役割を考えることができる。 ②博物館と地域社会など幅広い博物館ネットワークを知り、新たな博物館像を得る。 ③新たな運営方法にも柔軟に立ち会えることができるようにする。		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス		
	2	博物館経営論とは	参考文献②第1章	
	3	日本とアメリカの経営法	参考文献①第1章	
	4	博物館経営の基盤 行財政	参考文献②第2章	
	5	組織と職員	参考文献①第3、4章	
	6	施設・設備	参考文献①第2章	
	7	マーケティング（1）マーケティングとは	参考文献①第6章	
	8	マーケティング（1）利用者調査	参考文献①第6章	
	9	使命・評価	参考文献②第3章	
	10	博物館倫理	参考文献②第3章	
	11	広報・営業	参考文献①第7章、②第4章	
	12	ミュージアムネットワーク	参考文献②第5章	
	13	指定管理者制度	参考文献②第6章	
	14	博物館経営の課題	参考文献②第7章 ネット等で学習	
	15	まとめ	ネット等で学習	
	16			
	学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考文献：①『博物館学講座12博物館経営論』雄山閣、2000、¥3240 ②『新博物館学教科書 博物館学III』学文社、2012、¥2300 ③その他参考資料		
	評価	テストは実施せず、レポート・課題・感想（80%） 平常点（20%）で評価する ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。 レポート・・・（課題は期間中に提示。最終授業までに提出）		

学びの継続	次のステージ・関連科目	経営的感覚を養い、批判的、創造的に運営者の視線で博物館を鑑賞できるように努力しましょう。実践に役立てるつもりで学びましょう。
-------	-------------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館資料保存論	後期	金3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-藤波 朋子	2年	授業後メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館における資料保存および資料の保存・展示環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得し、資料の保存に関する基礎的能力を養うことを目的とします。博物館で扱う資料を適切に保存するうえで基本となる考え方、保存の方法等の紹介、資料の取り扱い方や、保存容器等についても学習します。	博物館資料の保存のための科学的な要素も含まれてきますが、わかりやすく説明できたらと思っています。
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 博物館における資料保存 基本的な考え方	プリント・課題等
	2	(特) 博物館資料の保存環境 1 温湿度-1	テキスト2. 1、プリント・課題等
	3	(特) 博物館資料の保存環境 1 温湿度-2	テキスト2. 1、プリント・課題等
	4	(特) 博物館資料の保存環境 2 光(照明)	テキスト2. 2、プリント・課題等
	5	(特) 博物館資料の保存環境 3 大気・環境	テキスト2. 3、プリント・課題等
	6	(特) 博物館資料の保存環境 4 生物被害 IPM	テキスト2. 4、プリント・課題等
	7	(特) 博物館資料の保存環境 5 災害対策(1)	テキスト2. 6、プリント等
	8	(特) 博物館の保存環境 5 災害対策(2)	テキスト2. 6、プリント・課題等
	9	(特) 資料の保全 1 資料の科学的調査法	プリント・課題等
	10	(対) 資料の保全 2 資料の状態調査・現状把握(対面)	テキスト3. 2、プリント等
	11	(特) 資料の保全 3 資料の保存処置と修復・紙資料他・資料の保護措置	テキスト3. 3、プリント・課題等
	12	(対) 資料の取り扱いと収納 1 陶磁器類資料の保全(対面)	プリント等
	13	(対) 資料の取り扱いと収納 2 軸送品資料の保全(対面)	プリント等
14	(特) 資料の保全 各論1 漆製品・染織品	プリント・課題等	
15	(特) 資料の保全 各論2 映像資料他	プリント・課題等	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト 石崎武志『博物館資料保存論』2012, 講談社 参考文献 ①神庭信幸『博物館資料の臨床保存学』2014, 武蔵野美術大学出版会 ②東京文化財研究所編『文化財の保存環境』2011, 中央公論美術出版 ③本田光子・森田稔『博物館資料保存論』2012, 一般財団法人放送大学教育振興会 ④青木豊『人文系博物館資料保存論』2013, 雄山閣 ⑤京都造形芸術大学編『文化財のための保存科学入門』2002, 角川書店 他		
学びの手立て	資料に対する理解を深めるため、実習(対面授業)を行う予定です。 (対面授業は、第10回、第12回、第13回の予定) その際、服装等の注意、道具や材料の準備を要することがあります。		
評価	授業参加度と講義毎の課題提出、講義内での作業に取り組む姿勢、テスト等により理解度を総合的に評価する。 評価配分割合…授業参加度等(上記テスト以外)30%・テスト70%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業内で学習することは、ごく基本的な事項になります。 履修が終わっても、各単元について参考文献等に当たったり、各自で積極的に博物館展示を見学することで、学芸員としての業務に当たる際に必要となる基礎知識の定着のため、研鑽を積むようにしてください。
-------	--

※ポリシーとの関連性

博物館資料の保存に関わる調査、環境整備、保護措置や修復等の知識の習得、及び取扱いに関する基礎的能力を養います。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館資料保存論	前期	土5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大湾 ゆかり	2年	講義終了後に教室及び提出する資料で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館で取り扱う「もの」資料を適切に保存する上で、資料の材質、保存環境の整備、複製作成、修復作業にいたるまで、基本となる考え方や処理方法等を紹介します。また、資料の取り扱い方や保存容器等の作成方法についても学習します。	まず、本気で学芸員になりたいのか自己確認してもらいたいと思います。自分が学芸員になった場合、どういうことをしたいのかというイメージや目標を持った上で、資料の保存に向き合ってください。そうすれば、資料保存に関する学習も必ず身につくはずですよ。
	到達目標	
	・資料の物理的な性質と劣化要因を理解した上で、資料保存の上で必要な手だてについて学ぶことができます。 ・講義内容の要点をまとめて報告する表現方法や文章作成の能力を高めます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	博物館における資料保存の意義	提出シート1 (初回アンケート)
	2	博物館資料の保存環境1 資料保存の諸条件とその影響 (温湿度)	提出シート2 (授業内容の復習)
	3	博物館資料の保存環境2 資料保存の諸条件とその影響 (光・大気)	提出シート3 (以下同様)
	4	” 生物被害とIPM (総合的有害生物管理)	提出シート4
	5	博物館資料の保存環境3 災害の防止と対策 (火災・地震・水害・盗難等)	提出シート5
	6	博物館見学 (常設展・その他) ※日時変更あり	レポート
	7	資料の保全1 状態調査・現状把握	提出シート6
	8	資料の保全2 資料の材質	提出シート7
	9	資料の取り扱い実習	
	10	資料の取り扱い実習	
	11	資料の保全3 資料の保存処置と修復 (1) 記録資料	提出シート8
	12	” 資料の保存処置と修復 (2) 民俗資料	提出シート9
	13	資料の保存4 資料の複製・保護処置	提出シート10
14	資料の保存5 資料の梱包と輸送	提出シート11	
15	文化財の保存と活用 (博物館の果たす役割について考える)		
16	試験又はレポート	試験	
	テキスト・参考文献・資料など		
	【テキスト】 ・石崎武志 『博物館資料保存論』 (KS理工学専門書) 2012, 講談社 【参考文献】 ・東京文化財研究所編 『文化財の保存環境』 2011, 中央公論美術出版 ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 『博物館実習マニュアル』 2002, 芙蓉書房出版 ・京都造形芸術大学編 『文化財のための保存科学入門』 2002, 角川学芸出版 ・沢田正昭著 『文化財保存科学ノート』 1997, 近未来社		
	学びの手立て		
	1. 対面授業の回数は3回に限られているので、テキストと配布資料によって自主学習にしっかり取り組んで内容の理解を深めてもらうとともに、復習シートの質問事項に回答する。 2. 各講義の復習シートは必ず提出して採点を受けること。これによって学習状況を把握する。 3. 対面授業のうち、少なくとも2回以上出席を求める。疾病等でやむを得ず欠席するときには、必ず届けを文書で提出すること。 4. 実習時には、机や道具の準備等、自主的に機敏に行動すること。		
	評価		
	・授業の出席態度、毎講義の復習シート、課題 (レポート) の内容等を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ぜひ自分が研究したいテーマを見つけて、卒業論文を書くこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性

博物館学芸員資格取得科目で、博物館の基本を理解するための「基礎科目」として位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館資料論	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館資料に関する知識や取り扱いの心得を学ぶとともに、博物館の調査研究活動について理解し、博物館資料に関する基礎的知識を養う。	【実務経験】博物館における実務経験を活かして、実際に現場で行ってきた事例に即して、収集・整理・保管等に関する基礎的知識や理論・方法について講義します。
到達目標	博物館の資料の考え方を学び、学芸員としての社会的責務を理解できる。博物館が扱う資料について、その意味を理解できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	博物館資料とは？	関連資料を配布するので読むこと
	3	博物館資料の種類と分類	関連資料を配布するので読むこと
	4	博物館資料の収集	関連資料を配布するので読むこと
	5	博物館のコレクションポリシーについて（各自課題に取り組むこと）	各自課題提出
	6	博物館資料の受け入れ	関連資料を配布するので読むこと
	7	資料受け入れ原簿の作成（実習）	各自課題提出
	8	博物館資料の取り扱いと保管・管理	関連資料を配布するので読むこと
	9	博物館資料の取り扱い（箱紐を結ぶ）	各自課題提出
	10	自然史資料の取り扱いについて	関連資料を配布するので読むこと
	11	博物館資料の公開	関連資料を配布するので読むこと
	12	博物館資料の活用	関連資料を配布するので読むこと
	13	博物館資料の修復と製作	関連資料を配布するので読むこと
14	博物館と地域と市民	関連資料を配布するので読むこと	
15	まとめ	これまでの配付資料を読むこと	
16	レポート（博物館資料を見学し展示環境等を調べる）	各自課題に取り組むこと	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは指定しない。出席確認を毎回厳格に行う。</p> <p>参考文献①伊藤寿朗1993年『市民のなかの博物館』吉川弘文館。②大学博物館学講座協議会西日本部会編2012年『新時代の博物館学』芙蓉書房出版。③有元修一他編1999年『博物館資料論』樹村房。④青木豊2012年『人文系博物館資料論』雄山閣。</p>		
学びの手立て	<p>履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・提出するレポートと課題は、発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 ・「博物館学概論」を受講していると理解が早い。受講していない学生も本講義を理解できるよう配慮する。 		
評価	<p>小テスト・課題50%、期末テスト50%。</p> <p>※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>学芸員の視点から広く情報を収集し、展示会を見学するなど多くの博物館資料に触れること。関連科目としては「博物館資料保存論」「博物館展示論」「考古学概論2」。上位科目としては「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館実習Ⅰ	集中	集中	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史、他	3年	経済学部 浦本先生、小川先生、総合文化学部 上原静先生、宮城弘樹先生に問い合わせ	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	博物館実習Ⅱ（館務実習）のための基礎的知識や技術の涵養を目的とする。	博物館学芸員の目的、仕事の役割を十分理解して、実習に望んでもらいたい。		
学びの準備	到達目標	到達目標		
	学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業を行う「博物館法」に定められた、博物館におかれる専門的職員です。これらの業務のプロを目指します。			
学びの実践	学びのヒント	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>実習Ⅰ（必修科目）は次の実習科目から構成されています。</p> <p>1. 地域調査実習（担当：小川）、2. ギャラリー調査実習（担当：浦本）、3. 考古学発掘現場見学実習（担当：上原、宮城）、4. 人類学調査実習（担当：石垣、及川、比嘉）、5. 自然観察実習（担当：名城、山川、仲田）、6. 博物館見学実習（担当：小川、上原、浦本、石垣、宮城）。</p> <p>以上の実習科目30時間をすべて履修して、レポートや試験に合格する必要があります。そして実習Ⅰをふくむ学芸員課程の必修および選択必修科目の座学の科目をすべてを履修すると、4年次の博物館実習Ⅱの受講許可を得ることができます。</p>		
	テキスト・参考文献・資料など	<p>沖縄国際大学ホームページで紹介しています。</p> <p>アクセス方法：沖縄国際大学ホームページ→在学生の皆さま→教育支援に関する情報→博物館学芸員資格・学芸員ブロック等で紹介しています。</p>		
	学びの手立て	<p>博物館学芸員の業務について常に興味をもち、県内博物館の常設展、企画展に積極的に参加することが望ましい。</p>		
	評価	<p>博物館実習Ⅰの各科目ごとに、レポートや試験で成績評価をおこなう（100%）。最終的にそれらの成績を合算・平均して実習Ⅰの成績算出をおこなう。</p>		
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>博物館実習Ⅱ（館務実習）</p>			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館情報・メディア論	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	研究室 (5433) またはメール：huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	博物館や美術館に求められるものは、まず、鑑賞の場・空間の提供である。そして、歴史や芸術、文化を教育する場の提供でもある。その2つの効果的な提供（鑑賞と教育）を実施するには「伝える」という手法が目的別に必要になる。そのため、メディアの効果・効率のよい利用法を習得することは不可欠である。	コロナ禍であるが学芸員資格科目の1つであり、必修科目です。遠隔授業で実施しますので、TeamsかZoomの環境を各自で整えておくようにして下さい。学芸員においても視聴覚技術を習得すると同時にICTに関する知識を習得しなければならないので、情報技術に関心を持って欲しい。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館におけるメディア利用の有効性とその役割を説明することが出来る。 2. 博物館などで利用されているデータ管理やアーカイブシステムについて説明することが出来る。 3. 知的財産や個人情報の取り扱いについて説明することが出来る。 4. 授業で学んだ知識を企画書作成に活かすことが出来る。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業の内容確認とメディアの変遷	1回：メディアの変遷を事前学習
	2	メディアとは何か、情報とは何か	2回：メディアの変遷を事前学習
	3	メディアとは何か、情報とは何か	3回：メディアの変遷を事前学習
	4	博物館におけるメディアの意義、情報の意義	4回：メディアの変遷を事前学習
	5	情報教育の意義と重要性	5回：メディアの変遷を事前学習
	6	博物館活動において情報化の役割	6回：メディアの変遷を事前学習
	7	博物館の機能と扱う情報（データベース化とドキュメンテーション保管）	7回：保存法について事前学習
	8	博物館の機能と扱う情報（デジタルアーカイブの現状と課題）	8回：保存法について事前学習
	9	博物館における情報発信と管理（インターネットの活用と問題点）	9回：ネット活用法を事前学習
	10	博物館における情報発信と管理（メディア制作の目標設定と評価法）	10回：問題解決法を事前学習
	11	情報機器の活用（必要とされる知識と技術）	11回：問題解決法を事前学習
	12	コミュニケーションを支えるICT	12回：問題解決法を事前学習
	13	知的財産権（著作権と特許）、個人情報保護（肖像権）、権利処理の方法	13回：知的財産について事前学習
14	企画作成書のノウハウ	14回：企画書制作の事前調査	
15	企画作成書のノウハウ	15回：企画書制作の事前調査	
16	メディアを取り入れた企画書作成（博物館で可能な企画を立案）	16回：企画書制作の事前調査	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 講義に必要なテキスト・資料等は適宜配布する。 博物館経営・情報論（放送大学教材）、新しい博物館学（芙蓉書房出版）、 情報社会の文化（東京大学出版会）、情報・メディア・教育の社会（東信堂）など		
学びの手立て	様々な博物館や美術館を見学し、展示方法にどのようにメディアが効果的に利用されているを紹介する。		
評価	授業の振り返りレポート70%、最終課題である企画書作成（30%）の内容が授業で学んだ10項目に沿って作成されているかで評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年生になると博物館や美術館、資料館などで実習に入ります。その実習で授業で学んだことを実際の現場で活かすことができ、学芸員としての知識と技術が身につく。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	博物館展示論	前期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-翁長 直樹	2年	授業終了後に教室で受けつけます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講座を通して実際の博物館・美術館の展示における例を数多く紹介しながら、博物館・美術館における展示の目的理念と効果が相乗的に提示できるには、いかにすべきかを学ぶ機会としたい。	博物館展示は資料の収集・保管とならば博物館の主要な機能です。「展示」の理念的な意味や歴史、技術論、ストーリー、構成などを学びながら、展示の実例を参考に、展示担当者としてどうするかを考える機会にしたいと思います。
到達目標	①展示の基本的な理念を習得し、歴史的な経緯を学び、時代によって変わる展示思想を考える事ができる。 ②授業を通して、動線、展示空間、照明、演示具、展示ケースなどを学び、展覧会開催を目標に、主体的に学ぶことができる。 ③解説文をメディア、テーマによって書き分ける事ができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	ガイダンス	
		2	展示とは何か	展示について考える
		3	展示と展示論の歴史	参考文献②第2章
		4	博物館展示と展示ストーリー	参考文献②第3章
		5	展示空間の多様性	参考文献②第4章
		6	企画から完成まで 常設 概要	参考文献②第4章
		7	展示評価	参考文献②第5章
		8	展示の現場から① 沖縄戦後美術50周年展	資料の読み込み
		9	展示の現場から② 県立美術館開館記念展	資料の読み込み
		10	展示の現場から③ 県立美術館1周年展	資料の読み込み
		11	展示の現場から④ トシコ・タカエズ展	資料の読み込み
		12	展示の現場から⑤ Okinawa Art in New York	資料の読み込み
		13	解説文・解説パネルの特性、構造	参考文献①第3章
		14	館種別博物館の展示活動	参考文献①第4章
		15	世界の博物館	自分で調べておく
		16	博物館展示の課題	参考文献②第8章
	テキスト・参考文献・資料など	・テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考文献：①『博物館学講座 9 博物館展示法』雄山閣, 2000, ¥3240 ②『新博物館学教科書 博物館学II』学文社, 2012, ¥2300		
	学びの手立て	・履修の心構え 毎回授業のまとめを提出するので、欠席の場合は翌週欠席届を提出。日頃から博物館・美術館には通う習慣を身につける。		
	評価	テストは実施せず、レポート・課題・感想（80%） 平常点（20%）で評価する ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。 レポート・・・（課題は期間中に提示。最終授業までに提出）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	テーマを設定し、企画書を作成し、展示空間を想定した展示計画ができるようにするのが次の目標です。展覧会を学芸員視点で鑑賞できるようにします。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化史 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-翁長 直樹	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 琉球・沖縄の歴史・文化をモノ資料（彫刻、絵画、漆器、織物、染物、焼物等）を通して学ぶ。背景となる琉球の経済、社会構造、人々の死生観等を考えながら、造形意匠の意味を考察し、琉球沖縄について学ぶことがねらいである。前期では主に古琉球、近世琉球について学ぶ。	メッセージ 画像を多用し、視覚的に学べるようにする。博物館・美術館の活用を促す情報を提供する。
	到達目標 琉球・沖縄の文化を学ぶことで、現在を生きる我々の指針となることが目標である。今後どのような職業、方向に辿ろうとも基本的な教養として沖縄文化は必要であり、本講座がその一端となる機会としたい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	南島イメージについて	自己のアイデンティティを考える
	3	神とムラ 共同体と神	沖縄文化の基層について考える
	4	グスクの造形 ①首里城	首里城について調べる
	5	②勝連城	勝連城について調べる
	6	③浦添ようどれ	浦添ようどれについて調べる
	7	王朝文化 尚真王代の文化と政治	尚真王朝文化の資料の熟読
	8	古琉球・近世の造形 焼物	古琉球焼物資料の熟読
9	絵画	古琉球絵画資料の熟読	
10	織物・染物	古琉球織物・染物資料の熟読	
11	漆芸	古琉球漆芸資料の熟読	
12	書	古琉球書資料の熟読	
13	音楽・舞踊	古琉球 音楽・舞踊資料の熟読	
14	彫刻・民具	古琉球彫刻・民具資料の熟読	
15	琉球のアイデンティティとは	資料の熟読	
16	琉球王朝時代の課題	琉球文化の理解	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に使用しない。授業の中でプリント配布。参考資料は授業中紹介する。		
	学びの手立て 毎回授業のまとめを提出するので、欠席の場合は翌週欠席届を提出。日頃から博物館・美術館には通う習慣を身につける。		
	評価 テストは実施せず、レポート・課題・感想（80%） 平常点（20%）で評価する ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。 レポート・・・（課題は期間中に提示。最終授業までに提出）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 文化史IIを継続受講すること。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化史II	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-翁長 直樹	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 琉球・沖縄の歴史・文化をモノ資料（彫刻、絵画、漆器、織物、染物、焼物等）を通して学ぶ。背景となる琉球の経済、社会構造、人々の死生観等を考えながら、造形意匠の意味を考察し、琉球沖縄について学ぶことがねらいである。文化史IIでは主に沖縄の近代、現代文化について学ぶ。	メッセージ 画像を多用し、視覚的に学べるようにする。博物館・美術館の活用を促す情報を提供する。
	到達目標 琉球・沖縄の文化を学ぶことで、現在を生きる我々の指針となることが目標である。今後どのような職業、方向に辿ろうとも基本的な教養として沖縄文化は必要であり、本講座がその一端となる機会としたい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	
	2	琉球処分の意味	沖縄近代史の理解
	3	廃藩置県後の社会と文化	廃藩置県について調べる
	4	①絵画・書	近代の絵画・書資料の読み込み
	5	②染色・織物	近代の染色・織物資料の読み込み
	6	③洋画	近代の洋画資料の読み込み
	7	④建築	近代の建築資料の読み込み
	8	⑤焼物・金工	近代の焼物・金工資料の読み込み
9	戦前の沖縄社会と文化	戦前の沖縄社会について調べておく	
10	戦後の文化 ①絵画・書	戦後の絵画・書資料の読み込み	
11	②焼物・染織	戦後の焼物・染織資料の熟読	
12	③写真	戦後の写真について調べておく	
13	④映画	戦後の映画について調べておく	
14	⑤建築・彫刻	戦後の建築・彫刻資料の読み込み	
15	⑥観光と文化	観光と文化について調べておく	
16	近現代沖縄文化の課題	縄文化の問題について調べておく	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に使用しない。授業の中でプリント配布。参考資料は授業中紹介する。		
	学びの手立て 毎回感想文提出。欠席届は必ず提出すること。		
	評価 テストは実施せず、レポート・課題・感想（80%） 平常点（20%）で評価する ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。 レポート・・・（課題は期間中に提示。最終授業までに提出）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 琉球・沖縄文化の基礎を身につけることで、現在の沖縄の文化的状況を知り、さらに自主的に知識を深める
-------	---